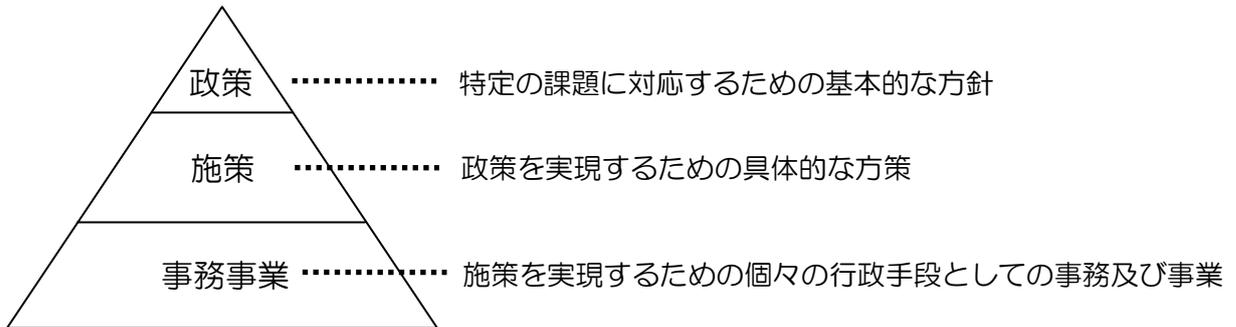


上富良野町事務事業評価の概要

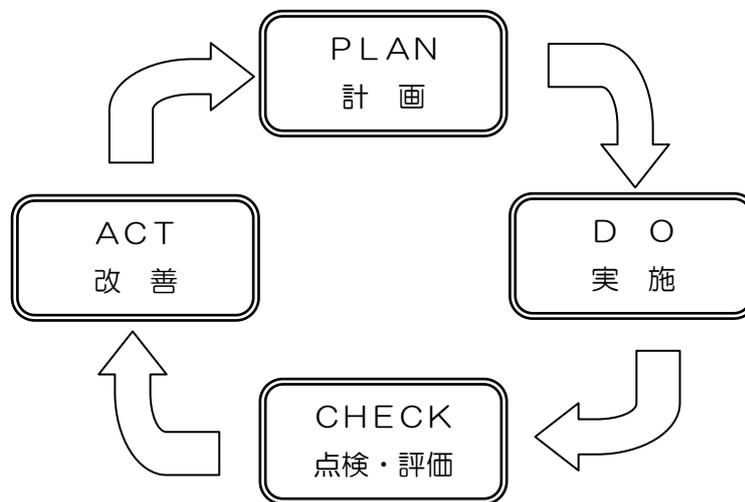
町が行っている様々な行政活動が町民の皆様のニーズに的確に対応し、効果的で効率的な行政運営がされているかを、点検するために平成20年度から試行として実施し、平成24年度から本施行として行政評価を実施しています。

行政活動を評価するには、「政策」、「施策」、「事務事業」の3段階がありますが、行政活動の根本である事務事業を評価しています。



評価方法は、PDCAマネジメントサイクル方式により、評価しています。

綿密に計画（PLAN）し、計画に沿って実施（DO）し、実施後に点検・評価（CHECK）し、改善すべき点は改善（ACT）し、次年度の実施（DO）につなげます。



新しい事業を実施する前、計画段階（予算要求前）に、事業を実施すべきか、もっと効率の良い実施方法がないかなど、評価（事前評価）したうえで、事業を実施しています。

事業実施後に、目的に沿った成果が得られているか、もっと効率の良い実施方法がないかなど、評価（事後評価）し、その事業の今後の方向性（継続して実施するか、改善すべき点はないかなど）を決定して、次年度の事業につなげています。

事後評価は、3年ですべての事務事業を評価できるように、1年毎に1/3ずつの事務事業の評価を行っています。

3年に一度評価を行うことで、常に時代のニーズに適應した事業を行っているか評価を行います。

事前評価・事後評価ともに事業の各担当が、評価調書を用いて自己評価（1次評価）を行った後に、政策調整会議でより客観的な立場で再評価（2次評価）を行っています。

2次評価結果をもとに、予算要求を行ったり（事前評価）、次年度からの事業実施（事後評価）を行ったりします。

*政策調整会議とは？

諸課題の解決方を審議するため、副町長と、町長が指定した6名の課長で構成する会議です。

事前・事後評価結果の見方

評価結果一覧表では、2次評価結果のみ公表しています。

必要性とは？

町が実施することが妥当であるか、施策(上位の目的)に有効に結びついているか等について検証します。

効率性とは？

最も適切な手法であるか、他事業との重複や統廃合の余地はないか等について検証します。

公平性とは？

行政サービスの対象に問題はないか、適正な受益者負担を求めているか等について検証します。

必要性、効率性、公平性は、チェック表を用いてすべて項目に適切で見直しすべき点があれば「A」、見直しすべき点があれば「B」とし、コメント欄に、見直し等についての指示事項を記載しています。

緊急性とは？

事前評価のみの評価項目です。

「A」すぐにでも対処しなければならない（年度内補正）

「B」緊急性が高い（1年以内、次年度予算）

「C」緊急性はある（3年以内、投資的事業は実施計画で位置付け）

「D」緊急性はない

方向性とは？

これからの事業をどのように実施するか（事後評価）、新規（変更）事業として実施するか（事前評価）を表しています。

事後評価の方向性

拡大・・・今後も事業の拡大・重点化を図るべき事業

継続・・・実施方法等に問題がないため、現状どおり継続するべき事業

見直し・・・実施方法の変更などにより、成果の向上をめざすべき事業

縮小・・・サービス供給が過大であり適正化が必要な事業やコスト節減が必要な事業で事業の縮小が妥当な事業

将来廃止・・・事業目的の意義がかなり低下している事業や成果が上がっていない事業で、事業の廃止が妥当な事業（廃止年度を明確にします）

廃止・・・直ちに廃止すべき事業

完了・・・事業期間の終了を向かえた事業

事前評価の方向性

実施・・・新規（変更）事業として計画どおり実施する

見直して実施・・・計画を見直しして実施する（実施時期の変更も含む）

実施しない・・・実施しない